

10月 1日(木)

おはようございます。先日、あるクラスで情けない話ですが、国籍のことで、生徒をからかうという出来事がありました。差別の問題です。国籍による差別とか絶対にならないようにしてください。

諸君、大切なことは、21世紀は話し合いの時代だということです。日本という国は、いろいろあっても話し合いで解決していこうという国です。憲法もそうです。だれでも戦争はしたくない。僕もしたくない。みんなもしたくないはずです。戦争をしないでものごとを解決していくためには、話し合いで解決いく力をつけなくてははいけない。平和が大事だとどれだけ口で言ってもそれだけではどうしようもない。私たちが、話し合いで解決する国民になっていかなければだめです。国会のまわりで安保法政に反対する人たちが集まっていますが、その気持ちは私もわかります。わかるけども、それだけでは僕は変わらないと思っています。ほんとうに戦争をしたくなかったら、話し合いでちゃんとものごとを解決できる国民にならないといけないと思うからです。

そして、そのためには、差別というのがあっては絶対にはいけません。最近、最近ヘイトスピーチで、少しでも気に入らないことがあると、たとえば尖閣列島や竹島のことなどで、一部のそういう国籍の人たちを差別するケースがありますが、それはとんでもない話です。

なぜかと言うと、話し合いをすることと、ものごとを解決することと、差別することとは絶対に相容れないことだからです。差別するのは、いつでも話し合う前から結論が出ています。私が高くてあなたが低いのです。おまえが絶対下だと結論が初めから出ているのだから、話し合いで解決する必要がないわけです。

よく学園長先生がおっしゃるように、世界にはさまざまな価値観があるのです。その価値観の違いからさまざまな対立も起きてくるのですが、その対立を話し合いで解決していくときの前提は、何をおいてもまず差別しないことです。差別は話し合いの前提を壊すことです。話し合いで解決しないのですから、むしろ暴力でしか解決できない前提を作ってしまうこととなります。その意味で、ヘイトスピーチなんか一生懸命やっているのはとんでもないことです。日本の将来に対してものすごくマイナスなことです。

だから、われわれは、話し合いで解決できる国民になっていかなければならないし、話し合いで解決する土壌を作っていかななくてはなりません。そのためには、自他が常に対等でなければなりません。相手と自分が対等で同じ目線で話をしようという前提があれば、話し合いでの解決が望めます。おれが上でおまえが下という構えで、どうして解決できますか。同じ目線で話し合って、自分の考えをしっかりと伝える。そして相手が何を考えているかとい

うことをしっかり想像する。その想像力によって次は、こちら側の考えをきちんと相手に伝えて、納得感をもってもらうように努めるのです。

たとえば、自分がディスカッションやディベートで勝って、相手が黙っているときに、相手はただ言い負かされたから黙っているだけということが起こりえます。つまり、納得して黙っているのではない場合が。話し合いで大切なことは相手に納得感を持ってもらうことです。

互いに納得感持つことではじめて、永続的な人間関係、もしくは国と国との関係の維持が達成できるのです。そのためには、やはり差別の意識を持たずお互いに対等でなくてはなりません。しかし、つねにそうあることはとても難しいことです。なぜかと言うと、自分に自信のない人間や勇気がない人間は、まず、差別して自分を高い位置に置いた上で話をしたがるからです。そのほうが手っ取り早く自分が勝てるからです。しかしそれでは問題解決になりません。

諸君でも、トラブルを起こした後の反省文を読むと、ケンカしたときに、もっと冷静になってちゃんと話し合って解決すればよかったと、書いてあります。話し合いで解決するというのは勇気がいることです。なおかつ同じ目線で、相手と同じ目線で立って話をするというのは、これは度量がいることです。しかしそういう国民になっていかないと、積極的平和主義と言っても無理です。

般若心経の主人公は、観世音菩薩といいません。観自在菩薩というのです。観自在菩薩というのはひとつのたったひとつの見方しかできないのではなく、あらゆる角度の見方ができるのです。諸君等も、観自在菩薩となって、相手と対等に話をしよう。相手もひとり人間であり、自分もひとり人間であり、お互いに対等だということで、話しあうことのできる人間となってもらいたいのです。そういう人間としてしっかり育っていくことが、この国民をほんとうに守ることになるのです。

そういうことを自分が行っても何も変わらないと思う人もいるでしょう。しかしそうではありません。清風へ来られたときにダライラマ法王が、生徒諸君に聞かれました。「自分の将来がしあわせになるかに興味あるか、世界がこれからどうなるかに興味あるか」と。そうしたらみんな自分のことに興味あるほうに手あげました。何人かはいましたが、世界のこれからのゆくすえに興味あるものは大変少なかった。

そこで、ダライラマ法王はおっしゃいました。「これだけ世界が密接になった時に、世界のひとたちがみんな猜疑心と敵愾心に溢れているなかで、ひとりだけ幸せになるのは難しい。逆に、皆がお互いに協力してお互いに親切心を持って博愛の精神でお互いにやっといこうというなかで、ひとりだけ不幸になるのも難しい。」と。

いろんな価値観が、世界の国々とそれぞれ結びついているのです。諸君等

は若いのですから、ともに世界の未来を担っているわけです。こういうことをじゅうじゅうにわきまえて、大きな人間として、相手とつねに対等の目線で話し合えるように努力してもらいたいと思います。

最後にもう一度言います。差別をしたらろくな人間になりませんし、ろくな国になりません。しっかり自覚して生活して下さい。

今朝の話はこれで終わります。

( 学校長 )